한국어판 간행을 축하드리며(武末純一)

간행까지 경위 —서문을 대신하여—(武末純一 · 桃崎祐輔 / 安在晧 · 金武重)

第1部 總論 · 方法論

聚落考古學 斷想(李健茂) _ 13

彌生 · 古墳時代 聚落構造論 序說(武末純一) _ 17

韓日 先史考古學에 있어서 '集團' 硏究에 대한 檢討(李基星) _ 39

沖積地 立地 聚落의 空間配置 檢討(尹昊弼) _ 51

第2部 青銅器時代의 聚落

雙陀子文化의 住居樣相과 變化(千羨幸) _ 69

西北韓地域의 青銅器時代 聚落에 대하여(李亨源) _ 83

江原 嶺西地域 青銅器時代 聚落의 編年과 變遷(金權中) _ 91

南關東의 彌生時代 聚落의 特徵과 問題點(浜田晋介) _ 105

湖南 北西部 海岸地域의 青銅器文化(金奎正) _ 117

洛東江中流域 青銅器時代 聚落의 變遷 -大邱地域을 中心으로-(河眞鎬) _ 135

錦江中流域 青銅器時代 前期 聚落의 成長(孔敏奎) _ 155

南部 東海岸地域 青銅器時代의 聚落(朴榮九) _ 175

韓半島 東南海岸圈 青銅器時代의 家屋葬(安在晧) _ 191

松菊里型 住居의 構造比較 -日本 九州地域을 中心으로-(李宗哲) _ 215

中部地方 粘土帶土器段階 聚落과 社會 性格(宋滿榮) _ 225

中部地域 圓形粘土帶土器期의 聚落構造論(庄田愼矢) _ 237

第3部 據點聚落과 環濠聚落

青銅器~原三國時代 環濠聚落의 展開樣相(裵德煥) _ 251

彌生時代 據點聚落의 構造變化와 首長의 墳墓 -彌生時代 中期부터 後期終末期의 佐賀 · 神崎地方의 例-(七田忠昭) _ 269

近畿 彌生時代 據點聚落再考(禰宜田佳男) _ 287

第4部 原三國時代~三國時代(彌生時代~古墳時代)의 聚落相과 竪穴住居

據點聚落의 變異를 통해 본 榮山江流域의 古代社會(李暎澈) _ 307
百濟의 泗沘遷都와 周邊聚落의 動向(山本孝文) _ 317
三國時代 嶺南地方의 特殊聚落 檢討(兪炳琭) _ 331
初期百濟 交易據點都市의 地形景觀(李弘鍾) _ 347
日本列島의 古墳時代 豪族居館과 韓半島의 當該遺蹟과의 比較(橋本博文) _ 361
鐵器時代 벌림집과 장군형 주거구조의 검토(池賢柄) _ 379
全南 南海岸一帶 1~3世紀 聚落의 動向(朴泰洪) _ 389
三國時代 南海岸地域 住居 · 聚落의 地域性과 變動(李東熙) _ 407
西日本 吉備南部에 있어서 彌生 · 古墳時代의 聚落과 社會(松木武彦) _ 421
北部九州에 있어서 古墳時代 聚落의 展開 -浮羽地域을 事例로-(重藤輝行) _ 441
古墳時代 聚落動態와 부뚜막(?)의 導入 · 土器組成의 變化에 대하여 _ 459
-北武藏에 있어서 渡來系 文化要素의 導入 · 普及의 프로세스(高久健二)
大邱 · 慶北地域 三國時代 聚落의 特徵과 性格(金昌億) _ 481
西日本의 竪穴建物 變遷過程-彌生時代 後期에서 古墳時代 中期 前半을 中心으로(寺井誠) _ 495

第5部 生産聚落과 土器

原三國~百濟漢城期의 鐵器 및 鐵生産聚落의 動向(金武重) _ 511
山陰에 있어서 鍛冶聚落의 展開(角田德幸) _ 533
嶺南地域 3~4世紀 日常土器의 硏究 現況과 方向(朴升圭) _ 551
慶南 西部地域 3~5세기 聚落의 編年(金賢) _ 567
4~6世紀 南江水系 聚落出土 土器의 編年(河承哲) _ 591
日常用土器 生産의 專門化 : 打捺文 甕과 鉢의 生産(李盛周) _ 605
百濟 土器가마(窯)의 特徵과 生産體系(鄭 一) _ 623
牧의 考古學 -古墳時代 목장(牧)과 牛馬飼育集團의 聚落 · 墓-(桃崎祐輔) _ 639

第6部 聚落과 渡來人

渡來人의 마을을 생각하다(龜田修一) _ 665
粘土帶土器 文化期의 移住와 聚落(李昌熙) _ 679
近畿의 渡來人 聚落(田中淸美) _ 687
奈良盆地의 支配據點과 渡來人(坂 靖) _ 717
三國時代 壁柱(大壁)建物硏究, 그 後(權五榮) _ 733
四國 槪觀(梅木謙一) _ 745

• 韓日聚落硏究會 活動 現況 및 會則 _ 763
• 執筆者 所屬一覽 _ 767